

2020 年度薬剤学教科担当教員会議 議事録

日時：2020 年 9 月 18 日（金）15:00～17:00

形式：Zoom ミーティング

<https://zoom.us/j/98494813983?pwd=VzIyNnpGSmNjSWhNanhua1RaekNHUT09>

委員長：神戸学院大学薬学部 福島昭二

副委員長：帝京平成大学薬学部 水間 俊（2021 年度委員長）

副委員長：崇城大学薬学部 山崎啓之（2022 年度委員長）

出席者：88 名（資料別添 1）、録音動画後日視聴：2 名（うち 1 名は Zoom 途中まで参加）

会議録画：不参加の先生方のために会議を録画したが、最初からの録画は行えず、第 105 回薬剤師国家試験問題検討委員会「薬剤」部会報告の途中から録画した。

1. 委員長、副委員長、初参加、異動の先生ご紹介

Zoom 会議は定刻通り開始された。参加者は問題なく Zoom 会議に参加できた。初めに、本年度委員長の福島昭二（神戸学院大学）が、新型コロナウイルスによる社会活動の変化にふれ、Zoom 会議に至った経緯の説明、本年度会議では特別講演を設定しなかったことへの了承を含めて、開催の挨拶を行った。次に、副委員長の水間俊先生（帝京平成大学）、山崎啓之先生（崇城大学、会議には不参加）が紹介された。続いて、本会議に初参加および異動された先生方から簡単な自己紹介をいただいた。

2. 第 105 回薬剤師国家試験問題検討委員会「薬剤」部会報告（資料別添 2）

昭和薬科大学 教授 宇都口直樹 先生

宇都口先生から、第 105 回薬剤師国家試験問題検討委員会「薬剤」部会（本年度は会議は行われず）で集計し、6 月 12 日（金）「第 105 回薬剤師国家試験問題検討委員会：Zoom 会議」で報告した内容と評価結果について報告があった。

総合評価として、薬剤学分野の問題は「良問が多かった」、「出題範囲はバランス良く多くの分野から出題された」、「図、グラフ、表を交え、考えさせる問題が多かった」、「表面的な知識でなく考える力が必要な問題が適度に含まれていた」、「出題者の工夫が感じられた」と言った好評価が寄せられた反面、「教科書での記載もなく、授業で取り扱っていない薬物の出題があった」、「理論問題、実践問題の難易度が高い」と言った意見も合ったことがのべられた。また、必須問題は適切なレベルであり良問が多かったこと、理論問題は計算問題やグラフから判断する問題が多く難易度が例年より高かったこと、実践問題では、複合性に問題なく良問が多かったが、薬剤学の範囲外の問題や、教科書に記載がない内容もあり、難易度が例年より高かったことが述べられた。各項目の評価では、誤りがあると判断された問題が 1 問あり、また、問題の観点から不適切である問題が 9 問、問題・選択肢の表現が不適切である問題が 16 問、複合性が不適切な問題が 1 問、授業で教えていない問題が 15 問あることが指摘された（これらの問題には重複あり）。以上の全体的な評価の後、誤りとされた問題、不適切とされた問題を個々に取り上げ解説された。その後、Zoom 参加者との質疑応答が行われた。

3. 第 105 回薬剤師国家試験問題、特に複合問題の内容に関する講評（資料別添 3）

岐阜薬科大学 教授 北市清幸 先生

北市先生から、「実務」部会と「薬剤」部会の両報告、正答率、および自らの実務経験をふまえ、複合問題を評価した結果について、私見として講評がなされた。まず、「薬剤学国試検討部会報告書」および「実務国試検討部会報告書」の概略が紹介され、複合問題の実務は、全体的には良問が多く、複合性についても改善されているが、ガイドラインやテキストレベルでは正解であっても実際の臨床現場では必ずしも正解とはならない問題があり、問題の設定が現実的でないものや不自然な問題が散見されたとの報告が紹介された。薬剤分野での複合問題には限界がある理由の 1 つとして、実際のシミュレーションが考えにくいことをあげられ、その原因として、PK 理論をしっかりと理解している薬剤師や、相互作用をメカニズムベースで理解している薬剤師が少なく、また、医師・看護婦からのこれらの観点での質問があまり聞かれないことをあげられた。その後、個々の複合問題につき、実務問題のみならず薬剤分野の問題も含めて解説された。最後に、薬剤分野での複合問題では、複合性が良好でこなれた問題が増え、また、現場に即した問題が一段と増加したとし、一方、学生は、捻られた問題が解けないことから、蓄えた知識を応用する習慣を身につける必要性を指摘した。また、国家試験対策として、定型問題、過去問への十分な対応、問題文を十分に読み込み基礎力を併用して回答する力の必要性、学生自身が実習でよく見た薬剤の勉強を自身で行なう努力の必要性、現場で使われている薬剤の特徴的な PK、製剂的知識に今まで以上に気を配る必要性を指摘し、他の分野と統合した疾患、治療の流れの理解に関する授業が必要ではないかと問題提起した。その後、Zoom 参加者との質疑応答が行われた。

4. Zoom 参加者からの学会・会議情報などのアナウンス

薬剤学との関連の有無に関わらず、皆さんにアナウンスしたい学会情報や会議情報を、それぞれ個別に発言いただいた。

5. 総括

本年度委員長：福島昭二（神戸学院大学）より、Zoom 参加者、宇都口先生、北市先生、およびスタッフに対するお礼が述べられた。また、次年度委員長である帝京平成大学薬学部水間 俊先生より総評を頂き、来年度は 8 月 28 日（金）帝京平成大学 中野キャンパスで会議を開催することが伝えられ、会議を終了した。